

ハ出来ル丈ケ速ニ日支間ニ話ヲ始ムルコトヲ要スル処支那側ハ斯カル話ノ出来サルカ如キ事態ヲ作りタル次第ナルカ公使任命ノ問題ハ支那側ニ於テ結局如何ニ処理スル考ナリヤトテ其ノ思付ニ依リ尋ネタルニ宋ハ公使ノ問題ハ既ニ挽回スルノ望殆トナキ様自分ハ思ヒ居ルモ税率ノ問題等ニ付テハ何等カ非公式ニテモ交渉ヲ行フ様ナ方法ナキモノナリヤト語り居タル趣ナリ

奉天、南京、在支公使へ転電セリ

付一 綿糸統一税問題

676

昭和4年8月27日 在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

宋財政部長より船津に対し在華紡製品に統税
賦課方直接依頼について

上海 発
本省 8月27日後着

第一〇一七号

一、最近宋子文ヨリ船津ニ対シ日本ノ在支紡績会社ノ製品ニ対シ英米煙草会社ト同様ノ趣旨ヲ以テ出場税ヲ課シタキニ付税額ヲ適当ニ折合ヒテ承諾シ呉レ間數キヤト再三申出アリタルニ付船津英米煙草会社ノ例ニ付反問セル処宋ハ其ノ概略ヲ説明シ詳細ハ同会社ニ就キ取調アリタシト述ヘタルヲ以テ船津ハ自分トシテハ先ツ総領事ト相談シ篤ト研究シタル上御答スヘシト答ヘタルニ宋ハ総領事ヤ公使ニ相談セハ承認セラレヌコト明白ナリ然ラハ支那側トシテハ已ムヲ得ス適当ト信スル課税ヲ定ムルノ外ナキニ至ルヲ以テ夫レヨリモ直接当事者方面ト協議シテ税

額モ適当ニ折合ヒタキ意嚮ニテ斯ク御相談スル次第ナリト語リタル由ナリ

二、船津ハ其ノ後英米煙草ニ就キ取調ヘタル処同社ハ本件ニ関シ支那政府ト詳細ナル取極ヲ為シ居ルコト判明セルカ右ニ依レハ課税額及課税方法等ニ付テモ明細ナル規定アリ同社ハ之ニ基キ目下毎月二百万弗ヲ支出シツツアリ且同社ハ右出場税ノ納付ニ依リ南京政府ノ威令行ハルル限リノ支那何レノ地ニ於テモ釐金其ノ他ノ諸税課徴ヲ免セラルルコトトナリ居リ又会社ト支那政府トノ関係極メテ密接トナリ「ストライキ」其ノ他労働爭議ノ発生ニ依リ会社側ニ不利益ヲ来ス場合ハ直接支那政府ノ収入ニ悪影響ヲ及ホス関係上同社ノ経営特ニ支那人労働者ニ対スル関係等ハ極メテ具合ヨク取運ハレツツアルコトヲ確カメ得タル趣ナリ

三、右ニ関シ二十六日当地関係当事者会合ノ上右ハ日本側不承諾ノ為支那政府ニ於テ一方のニ課税ヲ為シ結局抗議附ニテ納付スルヨリモ種々ノ点ニ於テ利益アルコトヲ考慮シ一応支那側ノ具体的希望案ヲ承知シタキ旨宋子文ニ申入ルルコトトナリタル由ナリ

右不取敢電報ス委細公信
青島へ転電セリ

677 昭和4年8月30日
在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

宋財政部長覚書は関税増徴につき反对、充分
慎重なる態度を以て処理方船津紡績同業会総
務に注意について

別電 八月三十日発在上海重光総領事より幣原外務

大臣宛第一〇三〇号

宋財政部長の在華紡課税覚書訳文について

上海 8月30日後発

本省 8月31日後着

第一〇二九号

往電第一〇一七号ニ関シ

其ノ後宋子文ヨリ覚書(英文)ヲ以テ別電第一〇三〇号ノ
如ク申越シタル趣ニテ関係当業者側ニ於テハ三十日会議ヲ
開キ之ヲ審議シ税率其ノ他ノ点ニ付テモ詳細研究ヲ遂クル
由ナリ

尚本官ハ船津ニ対シ当業者ニ於テ充分之ヲ研究スルコトハ
然ルヘキモ例ヘハ輸入品ニ対シ従価五分ノ税ヲ課徴セムト
スルカ如キハ結局関税増徴ヲ行ハムトスルモノニシテ我方
トシテハ固ヨリ之ヲ容認スヘキ限リニ非サル次第ナルカ其
ノ他ニ付テモ充分慎重ノ態度ヲ以テ処理スル様注意シ置ケ
リ

支、南京、奉天、青島へ転電セリ

(別電)

上海 8月30日後発

本省 8月31日前着

第一〇三〇号

各省ニ於ケル綿花、綿糸及支那製綿布ニ対スル課税ハ不規
則ニシテ一般ニ甚タ加重且變動多キ処右ハ綿工業並商業ニ
障害アルニ鑑ミ政府ハ葉巻及巻煙草ニ対シ行ヒテ大ナル成
功ヲ収メタル如ク綿糸ニ対スル税ニ付テモ整理ヲ行ハムト
欲ス依テ左ノ如ク提案ス

一、内地製品(イ)支那産棉花ニシテ紡績工場ニ供給セラルル
モノニ対シテハ釐金ヲ含ミ総テノ税ヲ免除ス(ロ)支那製綿

含ム)ハ之ヲ撤廃ス」が通商局で加筆されている。

678 昭和4年8月30日
在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

宋財政部長提案の真意探索方を船津総務に申
し入れについて

上海 8月30日後発

本省 8月31日前着

第一〇三一号

往電第一〇二九号ニ関シ

船津ノ報告ニ依レハ三十日当地同業者ニ於テ会議ノ結果支
那側ノ提案ハ相当思切タルモノニシテ右提案ニ依レハ全額
四千万ニモ上ル増収アル見込ナルカ為種々ノ説出テテ会議
ハ不得要領ニ終リ結局数多ノ点ニ付支那側ノ意向ヲ確メタ
ル事トナリタル趣ナリ船津ハ先方ノ督促ニ従ヒ三十一日午
前宋子文ニ面会ノ筈ナリトノコトナルカ本官ハ輸入税引上
ヲモ意味スル根本的ノ提案ハ事態極メテ重大ナルコトヲ先
方ニ印象セシムルト共ニ斯ル提案ヲ為ス理由其ノ他支那ノ
真意ヲ充分探ルコトニ努ムヘキ旨申聞ケ置ケリ

編注 一 写では「布」は削除されている。

二 写では「(イ)支那産綿布ニ対スル各種税金(釐金ヲ

北平、奉天、青島、南京へ転電セリ

コトヲ得

ヲモ徴収セス

三、輸入綿布ニ対スル関税率ハ現在ノ通トス

税関ノ標準ニ従ヒ従価五分ノ税ヲ課ス

二、輸入品、輸入綿糸ニ対シテハ関税ヲ徴収シタル上更ニ

税、課金等ヲモ徴収セス

(編注二)

糸布ニ対シテハ工場ニ於テ税関ノ標準ニ従ヒ従価一割ノ
税ヲ課ス即チ十七番手以内ノモノニハ一「ピクル」四海
関両、十八番手ヨリ二十三番手迄ハ一「ピクル」四、四
海関両以下之ニ準ス右課税徴収ノ上ハ如何ナル性質ノ
税、課金等ヲモ徴収セス

(編注一)

支、南京、奉天、青島へ転電セリ

679 昭和4年8月31日 在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛

綿系統一税に対する在華紡績連合会会議録送
付について

機密第九九五号 (9月9日接受)

昭和四年八月三十一日

在上海

総領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

紡績ニ対スル課税問題

本件ニ関シテハ往電第一〇一七号及第一〇三一号ヲ以テ申
進シ置キタルカ右ニ関スル八月二十六日在華紡績聯合會々
議々事録写(別紙甲号)宋子文ノ船津ニ提出シタル覚書写
(別紙乙号)並国民政府ト英米煙草会社間ノ課税取極書
(別紙丙号)各一部送付ス御查收相成度シ

(別紙)

昭和四年八月二十八日

上海

船津 辰一郎

重光参事官閣下

拝啓

国民政府カ実施セントスル綿糸賦課税ニ就テ
近キ将来ニ実施セラレントスル綿糸ノ課税問題ニ関シ当会
同業者ノ例会會議録及ヒ英米煙草会社対国民政府トノ納税
協定書別紙ノ通り御参考迄ニ供貴覽候 敬具

(別紙)

第二十二回例会 在華日本紡績同業會

昭和四年八月二十六日(月曜日、都合ニ依リ二日繰上ク)

午后一時日本人俱樂部ニ於テ開催

出席者氏名左ノ如シ

同業會 船津総務 坂秘書 田川氏(大阪)

大 康 勝田氏

同 興 岸本氏

公 大 長澤氏

内 外 佐々木氏 元木氏

自分ハ

本件ハ第一通商条約ニ抵触スルモノナリ我々ハ条約
ニ規定セル税金ノ外支払ノ義務ナキモノナレハ第一
日本領事及ヒ公使ノ意見ヲ尋ネタル上ニ非レハ回答
スル能ハスト答ヘタルニ宋氏ハ

貴下カ万一条約問題ヲ担キ出サルナラハ本件ハ相
談ノ餘地ナシ然シ国民政府トシテハ各国カ承認スル
ト否トニ論ナク実施スル考ナリ、仍テ外交上ノ交渉
問題トセス財政部及英米煙草会協定ノ前例ニ倣ヒ平
和裡ニ協商シタキ故領事及ヒ公使ヲ經ルコトハ後廻
シトシテ先ツ自分(宋部長)ト日本紡績トノ間ニ話
ヲ進行セシメ度キ希望ナリ云々

仍テ然ラハ如何ナル程度ノ課税ヲ徴収スル意思ナリ
ヤト反問シタルニ

未タ何等考案ナキ故貴方ニ於テモ御研究ノ上如何ナ
ル程度ナラハ負担シ得ルヤ、山東ニ於テモ已ニ以前
張宗昌ノ時代此種ノ徴税ヲナシ最近又此税ヲ改訂シ
テ復活セントシツツアリ、
財政部ハ各地ニ於ケル区々ノ徴税ヲ廃シ中央ニ納税

スレハ国民政府ノ勢力範囲ニテハ再ヒ課税セサル考ナルニヨリ何レノ地方ニテ何程ノ徴収ヲナシツツアルヤ貴方ニ於テモ御取調ヘ願ヒタシ、云々
総務曰ク

B、A、Tノ規則ハ果シテ事実上実行セラレツツアリヤ

宋氏

煙草ニ関スル限り今日迄確實ニ履行セラレツツアリ過去ニ於テ二、三違犯ノコトナキニ非ルモ若シ仮リニ二重ノ税ヲ課シタル事アラハ報告有次第当地ノ税局ニテ払戻スコトトナリオレリ

総務

B、A、T製造ノ煙草ト支那人製造ノ煙草トノ間ニ差別待遇ナキヤ、特種工業奨励法ニヨレハ工業ニ対シテ二ツノ特点アリ即チ一ハ一定区域内ニ於ケル独占權、二ハ或ル年限内税金ノ免除又ハ輕減ナリ、右奨励法トハ如何ナル關係ヲ生スルヤ

宋氏

全然差別的待遇無シ、若シ新税法ヲ施行スルニ至ラ

政府ノ利害ト一致シ本協定成立後ハ適々B、A、Tニ勞資問題ノ發生スルコトアルモ国民政府ハ秘密裡ニ極力斡旋シテ局部的ニ之レヲ鎮圧解決シテ問題ヲ拡大セシメサル様努メ呉レルヲ以テ会社ニ取り却テ好都合ニテ至極満足シタル次第ナリ、從來各地各種ノ税金ニ悩マサレオリタル故豫々之レヲ統一シタキ希望ナリシ処幸ヒニ会社ニ取り最モ重要市場タル右九省内ニ於テハ平素ノ希望ヲ實現スル事ヲ得タル訳ナリ、滿洲ニ於テモ最近張學良ト同様ノ協定ヲ結フ事トナリ居ルカ張作相トノ話合未タ充分成立セス然シ早晚完了ノ見込ナリ其他ノ各省ハ廣東、廣西ヲ除ケハ会社ニ取り差シタル利害關係ナシ

本協定ハ何等條約ニ抵触セス勿論開港場ニ於テ納税スルコトハ多少抵觸ノ点アルモ條約ヲ盾ニ取りテ固執スレハ租界ノ内外ニヨリテ納税スルモノトセサルモノトヲ生シ其結果密売ヲ助長スルニ至ランモ租界ノ内外ニ對シテ一律ニ徵税スレハ此ノ如キ問題ヲ生スル虞ナキニヨリ進ンテ徵税ニ応ジツ、アル次第ナリ尚支那人製造ノ煙草ト異リタル待遇ヲ受クルコト

ハ「特種工業奨励法」ハ施行ヲ見合ハス考ヘナリB、A、Tノ方ニ於テハ常ニ支那人煙草商ノ行動ニ注意シ居リ若シ規定ノ印紙ヲ貼布セスシテ密売スル様ノ事アラハ重キ罰金ヲ課スコトトナリオレリ、綿糸ニ對シテモ同様ノ方法ヲ設クル考ヘナリ尚ホ念ノ為メB、A、Tニ問合ハサレタシ云々

已ニ發布セル法律ヲ勝手ニ取消スコト出来得ルヤ否ヤハ疑問ナルモ兎ニ角今朝B、A、Tニ行キ「パセツト」氏ニ面会シテ詳細聴取シタルカ其言フ処ニヨレハ

目下国民政府ノ管轄区域内ニ於テ製造セルモノニハ二割三分五厘、輸入品ニハ四割（其内七分五厘ハ輸入税ニシテ税関ニ支払ヒ三割二分五厘ハ他ニ積替ノ時支払フモノナリ）ヲ課税シオレリ而シテ其有効範圍ハ目下江蘇、浙江、江西、安徽、福建及ヒ山東、湖南、湖北、河北ノ九省ニ跨リ毎月支払フ税金ノ額約二百萬弗ニ達シ国民政府ハ之レヲ担保トシテ公債ヲ發行シオレリ本税ハ国民政府ノ財政ニトリテ有力ナル財源ニテ随テB、A、Tノ利害ハ或程度迄国民

ノ虞アル為メ特ニ第九條ニ他ノ製造家ニ優遇ヲ与ヘタル場合ハ之レニ均霑スヘキモノナルコトヲ規定シ置キタリ云々」

支那側ニテハ日本カ此棉糸税ニ同意スルト否トニ拘ハラス実行ノ決心ラシク随テ早晚課税ヲ免レサルヘシ、現ニ山東省ニ於テモ張宗昌時代ノ一割五分引ニテ納税シツ、アリ九月一日ヨリハ更ニ税率ヲ修正シ貨物ニヨリテ從前ニ比シ多少輕重ヲ附スル模様ナリ、自分ノ青島出立二、三日前財政厅长ニ面会シタルニ棉花ハ一担八十仙ヲ五十仙ニ綿糸ハ一俵三弗二十仙ヲ二、三割方割引スル積ナル由ニ付自分ハ三割引ヲ要求シオキタリ、何レニシテモ何時カハ逢着スヘキ問題ニツキ其曉ニハB、A、Tノ例ニ倣ヒ支那人工場ト差別的取扱ヲ受ケサル様此機會ニ於テ豫シメ協定シ置ク方得策ナラツヤトモ思考シ居レリ、宋氏ニ面会後ノ成行ハ未タ重光總領事ニ報告セサルモ此際各位ニ於テモ支那側ニ對シ如何ニ回答スヘキヤ篤ト御研究乞フ

田邊氏

煙草カ各地ニ於テ課税セラルル事ニツキ何故B、

A、Tカ困却セルヤ

総務

各地ノ代理店ニ対シ形式上買却トセルモ其実依托販売トナセルモノ尠カラサル為メナラン

同

将来適当ナル程度ノ税金ヲ支払フ事ハ已ムヲ得サル次第ナラント思ハル、目下山東ニ実施シツ、アル貨物税ノ例ニ倣ヒ若シ上海附近ノ各省ニテ貨物税ヲ徴収スルニ至ラハ結局 Underprotest ニテ支払ハサルヘカサル時期来ルナラン然ラハ豫メ自分ノ方ニ都合ヨキ条件ヲ要求シテ或ル種ノ保障ヲ取り置クカ得策ナラン即チ此機ヲ利用シテ将来我々ノ最モ懸念シ居ル出廠税モ課セス又特種工業奨励法ヲモ施行セシメサルコトシタキモノナリ所詮免レサル処ナランモ結局何程ヲ課セントスルモノニヤ、知リタシ

田邊氏

総務

支那側ニテモ未タ何等申出ナシ随テ自分モ一向見当ツカス、已ムヲ得サレハ輸入品ニ比較シテ或ル程度ノ率ヲ算出スヘキカ

田邊氏

各地方ノ税率ヲ調査シソレヲ平均シテ見ル必要アリ但シ一体先方カ何程ヲ課スル考ヘナルカ問合セ

西川氏

先約定ノモノハ頗ル迷惑ナリ

田邊氏

要ハ結局税率如何ニアリ

西川氏

率ト時期トナリ

勝田氏

手続上種々ノ裏道アリ實際表面ノ率ヨリ少ナク支払ヒツ、アルコトヲ考ヘサルヘカラス

田邊氏

税金ノ特別待遇別発ヲ紡績ノ責任トセラレテハ迷惑至極ナリ紡績ハB、A、Tノ如ク一会社トハ事情ヲ異ニシ工場数多数ナリ、何程ヲ課スル考ニヤ、問合シテ如何

総務

會議シタルモ事重大ニテ急ニ解決困難ナレハ更ニ研究中ナリ国民政府ニテハ一体何程ヲ又如何ナル方法ニヨリテ徴収スル考ナリヤ、承知シタシト回答シテ如何

◎宋氏ニハ右様回答ノコト

(以下省略ス)

午後三時散会

編注

別紙丙号見当らず。

ノ必要アリ

総務

山東ニテハ各省ノ税率ヲ問合シテ新税率ヲ作りツ、アリ

田邊氏

本問題ノ税金ハ必ス公債ノ担保トナルモノナランカ

総務

然ラン、B、A、Tタケノ税金ニテモ公債四千万弗ノ担保トナリオル由

田邊氏

本件ニ関シテハ支那人紡績ノ意嚮ヲ探ル必要アリ

総務

勿論ナリ、「ツ」氏ハ支那人紡績ハ已ニ承知シタリト語リシモ宋氏ハ未タ提議セス又相談ノ必要ナシト云ヘリ

勝田氏

本件ハ已ニ一昨土曜日ノ市場ニ表ハレ税金毎表八両トノ噂アリ

総務

同種類ノ商品ニハナルヘク或ル一種ノモノニ課税シタキ意嚮ノ由ニ付棉花ニ課セスシテ綿糸ニ課スルヤモ知レス

田邊氏

棉花ハ徴税困難ノ為ナラン

勝田氏

上海附近ニテハ綿糸一俵ニ対シ一弗七、八十仙納メツ、アリ

680

昭和4年9月2日

在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛

綿糸統一税に関する船津在華紡績聯合会総務

より武居同会長宛報告について

機密第九九号

(9月9日接受)

昭和四年九月二日

在上海

総領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

綿糸ニ対スル課税問題

本件ニ関シテハ往電第一〇一七号及第一〇三一号並八月三十一日附往信機密第九九五号ヲ以テ申進シ置キタルカ今般右ニ関シ当地船津在華紡績聯合会総務ヨリ武居同会委員長宛別紙ノ通り報告シタル趣ナルニ付右写一部何等御参考迄ニ送付ス

(別紙)

已第四九号

昭和四年八月二十九日

武居委員長殿

拝啓

綿糸ニ対スル特別課税ノ件

南京政府ガ目下計劃中ノ綿糸ニ対スル特別税ニ関シ去ル二十三日財政部長宋子文氏ト会見シ更ニ昨二十八日別紙写ノ通り先方ノ提案ニ接シタルヲ以テ不敢取其大要ハ已ニ本日付電ヲ以テ申進シ置キタル通りニ有之候得共右原文写及訳文茲許同封御送付申上候間当方二十六日會議録共御参照ノ上篤ト御研究被下度候尚当方ニ於テモ目下慎重ニ研究中ニ御座候他方当地ニ於ケル中国側紡績業者ノ意向ヲ操クル為本日恒豊ノ聶氏ヲ往訪シタル処同氏ノ談ニヨレバ本件ハ正式ニ当局者ヨリ通知ニ接シ居ラサルモ大体之ヲ聞知シ居レリ又日本側紡績業者ハ已ニ之レニ対シ承諾ヲ与ヘタリナドノ噂モ聞込ミタリ(小生ハ此点ニツキ全然無根ナル旨弁明シ置ケリ)元来中国人民約九割迄ハ棉服ヲ使用シ居ルヲ以テ棉糸ノ如キハ日常缺ク可カラザル一般の必需品ナリトス之ニ対シ我国政府ガ斯カル重税ヲ課セントスルハ頗ル

不都合ナリト思惟スルモ我等ハ国民政府治下ノ人民タル以上一度実施サルレバ之レニ服従スル外奈何トモ為ス能ハズ若シ日本側紡績業者ニ於テ何等反対ナク之レヲ承認スル時ハ必ズヤ実施セラル、コト疑ナシ云々ト申居内心大ニ反対ナルモ左リト公然反対運動ヲ起ス氣勢モナク全然成行ニ一任セントスル如キ模様ニ見受ケラレ候
先ハ右御参考ノ為メ御報告旁申上度如此ニ御座候
敬 具

681 昭和4年9月4日

在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

綿糸統一税に関する宋財政部長と船津総務との
会談について

上海 9月4日後発

本省 9月4日後着

第一〇五〇号

往電第一〇三一号ニ関シ

船津ハ先方ノ都合ニテ九月二日宋子文ニ会見セシ由ニテ其ノ際

第一、輸入綿糸ニ対シ更ニ五分ノ税ヲ附加スルコトハ事実

輸入税ヲ増率シ而モ七分五厘ヲ一割二分五厘トシ殆ト倍加ノ結果トナル処支那ニ於テハ未タ関税自主権ヲ回復セス支那自身ニ於テモ来年二月一日迄ハ現行七種差等税率ヲ変更セサルコトトシ居ル行懸アルカ右ハ之等ノ趣旨ニモ反スル訳ニテ列国ト雖之ヲ承認スルコト無カルヘク此ノ点ニ関スル支那当局ノ意見如何

第二、国内製品ニ対シ從価一割ノ税ヲ賦課スルハ此ノ分丈

ケニテモ三千万以上ノ增收ヲ見ルヘキ処斯ル重税ヲ課スルハ国内産業ノ進歩ヲ阻止スルノミナラス一般支那人ノ日用品タル綿布類ノ価格ヲ釣上ケ其ノ結果生活費ヲ増シ甚シク人民ヲ苦ムル結果トナラスヤ

トノ二点ニ付質問シ日本当業者トシテハ事態ヲ充分糺明スル迄ハ何トモ意嚮ヲ明言シ難キ旨ヲ述ヘタル処宋子文ノ回答左ノ通

第一ノ点ハ当業者ニ於テ承認ヲ得レハ列国政府トノ関係ハ別ニ支那政府ニ於テ交渉スヘシ列国トノ間ニ主義上ノ承認ヲ得レハ或ハ満足シ実施期ノ如キハ協議ノ上決定シ得ヘシ第二ノ点ニ付テハ重税ト言フモ現在ニ於テ釐金其ノ他ノ名

682 昭和4年9月4日

在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

在華紡績側では内外人の差別と釐金等の不当
課税全免を条件に中国側提案を受け入れの傾
向について

上海 9月4日後発

本省 9月4日後着

第一〇五一号

往電第一〇五〇号ニ関シ

当地ニ於ケル本邦当業者ハ三日会合シタルカ本件ニ付テハ

綿糸統一税を担保に編遣公債発行との申新紡績・栄宗敬の談話について

上海 発

本省 9月4日後着

第一〇五二号

往電第一〇五一号ニ関シ

曩ニ出廠税賦課問題ノ際支那及外国ノ当業者ハ一致反対シタル例モアルニ付此等ノ意嚮ヲ探知スル為船津ハ当地ニ於ケル有力ナル実業家タル申新紡績ノ榮宗敬ニ会见ノ上意見ヲ徴シタルニ同人ハ

自分ノ承知スル処ニテハ本件ハ既ニ政府当局ノ手ニ於テ殆ト決定セラレ居ル処ニシテ支那当業者ノ反対意嚮等ハ殆ト価値ナク自分トシテハ日本側ノ反対ニ依リ立消トナラハ喜ムテ之ニ均霑スル次第ナリ

ト語り共同反対ノ意気込ハ全然ナカリシ由ニテ尚其ノ際彼ハ

国民政府ハ最近有ラユル財源ヲ漁リ尽シ編遣公債モ其ノ担保ナキニ苦ミ居ル次第ナルカ若シ本件ニシテ関係者ノ主義上ノ承認ヲ得ルニ至ラハ之ヲ担保トシテ更ニ公債ヲ発行ス

支那側ニ対シ何等纏リタル意見ヲ開陳スルノ域ニ達セス意見ヲ極ムル材料トシテ専ラ各方面ニ亘リ出来得ル限り詳細ニ専門的ノ研究ヲ急ク事トナリタル趣ナルカ支那提案ノ如ク輸入綿糸ニ対シ五分ノ附加税ヲ課スルニ於テハ互惠税率ノ我方腹案ニモ障害ヲ来スノミナラス支那ノ財政状態ヨリ看ルニ綿糸以外ノ輸入品ニ対スル増率モ引続キ行ハルル運命ニ在リト看ルヘク其ノ影響スル処ノ大ナルハ勿論ナルカ去リトテ支那提案全部ニ付反対スルハ支那ニ於ケル各種工場経営上種々ノ妨害ヲ受ケ結局不利益ナルヘキハ想像ニ難カラサルニ付輸入税率ニ触レサル程度ニ於テ支那側ノ或ル程度ノ希望ヲ満タス為内地ノ産品ニ付テハ内外人ノ區別待遇ヲ為ササル事及釐金等ノ不当ノ課税ヲ全免セシムル事等ヲ条件トシテ当業者ニ於テ承認ヲ与フル位力宜シカラムト一応考ヘ居ル処本件ニ付テハ当地ニ於テモ商務官等関係官研究中ニ付其ノ結果ハ報告スヘキモ不取敢

支、南京、奉天、青島、漢口ヘ転電セリ

683 昭和4年9月(4)日 在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

ルノ底意ニアラスヤト思ハル旨ヲ述ヘ居タル趣ナリ尚船津ハ一、二英国人側ノ意嚮ヲ当リ見タルカ目下ノ処餘リ重大視スル模様ナク内国産品ニ対スル課税ニ付テハ反対ノ理由ニ乏シカルヘキ旨ノ意見ヲモ聞キタリト言フ支ヘ転電セリ

684 昭和4年9月5日 上海駐在横竹商務参事官より 幣原外務大臣宛

中国側による綿糸統一税導入の政策的意図について

商機密第二二二号 (9月11日接受)

昭和四年九月五日

上海駐在商務参事官

横竹 平太郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那紡績綿糸ニ対スル統一税徴収ノ件

最近国民政府財政部当局ヨリ当地在支紡績同業会側ニ対シ生産税設定ニ付非公式ニ照会アリタル次第ハ逐次当地総領事館ヨリ報告シアル通りナル処本問題ニ対シ当方ニ於テ見

積金額調査ノ結果左ノ通り申上グルニ付御了承ノ上何等ノ御高配相蒙度

写 北京 上海 南京

一、国民政府財政部当局ノ提議ノ統一税(コンソリデーター、タックス)如左

各省ニ於ケル棉花、綿糸及ビ支那製綿布ニ対スル課税区ニシテ綿業ノ発達ヲ阻害スルモノアルニヨリ政府ハ曩ニ紙巻及葉巻煙草ニ対シ特税ヲ課シ成功ヲ納メツツアルノ例ニ倣ヒ綿糸ニ対シ統一税ヲ課センコトヲ希望ス

甲、支那産品

一、紡績ニ供給セラルル支那棉花ニ対スル釐金其他総テノ課税ヲ免除ス

二、支那製綿糸ニ対シ海関評価ト同様ニテ従価一割ヲ工場ニ於テ課税ス、即チ例ヘバ十七番手以下綿糸一担ニ付海関両四兩同二十三番手以上ニ付海関両四兩四匁ト云フガ如シ

三、右統一税ヲ納付シタル後ハ綿糸ニ対シテハ勿論支那産綿布ニ対スル釐金其他総テノ税金等一切再ビ課

セラルコトナシ
乙、輸入品

四、輸入綿糸ニ対シ現行輸入関税ノ外海関評価ニ依リ
従価五分ヲ課ス

右課税ヲ納入シタル時ハ他ノ如何ナル税金ヲモ課セ
ラルコトナシ

五、輸入棉花ニ対スル輸入税ハ現行通りトス

右統一税ヲ徴収シタル後ハ

子口税各種附加税、教育附捐釐金等ノ如キ他ノ一切
ノ税ハ免除セラレ綿糸及ビ綿布ガ工場ヲ搬出セラレ
タル上ハ支那国内ニ於テ再ヒ何等課税セラルコト
ナシ

(一九二九年八月二十八日原文附属)

二、実行方法及税収見積額

右統一税実行方法ニ関シテハ未ダ何等具体的規定ナキモ
文面ヨリ見レバ支那産綿糸ニ付テハ工場ニ就キ其生産高
全部ニ対シ又輸入品ニ付テハ通関ノ際ニ番手ヲ案シ課税
セントスルモノニシテ即チ現行輸入税率基礎評価ヲ案ジ
其従価一割ヲ算出スレバ左ノ如シ

十七番手以下 二十番手以下 三十三番手以下 四十五番手以下	二、四、一七六、五九八 四、九、五、九一四 二、七、〇、九一三 四、三、二、三五六	六、六、四、四、〇〇〇 八、〇、〇、〇〇〇	一、六、七、〇、六、三九二 一、〇、九、八、〇、六、一四 二、一、六、二、五、〇、四七 二、九、四、〇、〇、二一
合計	七、三七五、四六一		三二、二五二、五〇五

其三、イ、従来移出綿糸ニ対シ単一税毎担海関両七匁同二

五附加税三匁五分徴収セラレ居ル処

綿糸移出数量 二、一七六、〇〇〇担(拠一九二七年統計)

此移出税額 二、二八四、八〇〇海関両

ロ、移出品ニ対スル単一税並同二五附加税

「ドリル」、「ジンス」、「シャチング」、「シーチン

グ」総数量五、五四八、〇〇〇疋

(編註)(税金海関両毎疋一匁五分トシ(従価約三分見当)

此税金額約 八三二、二〇〇海関両

土布、「メリヤス」、毛布、「タオル」等総価

一二、〇〇〇、〇〇〇海関両

此税金額約 三六〇、〇〇〇海関両

合計 一、一二九、二〇〇〃

以上イ、ロ会計 海関両 三、四七七、〇〇〇〃

一七番手以下担四両 現行輸入税七分五厘即チ三両
二三番手以下〃四両四〇〃〃〃 三両三〇
三五番手以下〃六両〃〃〃 四両五〇
四五番手以下〃六両八〇〃〃 五両一〇
四五番手以上〃従価一割〃 従価七分五厘
其一、支那、全国綿糸年生産高

(輸入税率表ニヨリ分類)(単位表(三百十五斤))

支那全体	内日本人紡績
十七番手以下 一、三二五、九〇四	三六二、八四六
二十三番手以下 七九二、二五二	四九七、三八三
三十五番手以下 八六、〇〇四	四〇、六〇八
四十五番手以下 一三七、二五六	九九、四五六
四十五番手以上	

合計 二、三四一、四一六 一、〇〇〇、二九三

其二、生産税ヲ綿糸一俵ニ対シ現行評価ニ依リ従価一割徴
収スルモノトセバ見積税額左ノ如シ

番手別	担換算	担	担ニ対シ徴収 スル生産税率 海関両	金額 海関両
-----	-----	---	-------------------------	-----------

原綿ニ対スル新税海関両三二、二五二、五〇五ヨリ差
引支那紡績製品ニ対スル増収額約二八、七七五、五〇
五両トナル

其四、輸入綿糸ヨリスル新增収額

従価五分ヲ課スルモノナルヲ以テ其増収率左ノ通り

一七番以下 担ニ付海関両 二両	
二三〃〃〃 二両二〇	
三五〃〃〃 三両	
四五〃〃〃 三両四〇	

而シテ一九二七年海関統計ニ拠リ其増収ヲ見積レハ

一七番以下	三六、九六六担	内日本品	三七担	六四両
二三〃	五、六一〃	〃	四、一〇〃	(一〇六、八四七)
三五〃	三、五七〃	〃	三、四〇〃	(七六、三八〇)
四五〃	三、二四〃	〃	三、一七〃	(七六、三八〇)
合計	一二、九八六〃	〃	一〇、六七〃	(三〇七、一五〃)

即チ総体ニ於テ約三百五十万海関両ノ増収トナリ
内日本品ノ負担額約三百万海関両ナリ
總而言之国民政府トシテハ支那製品ヨリ約二千八百八

十万海関両又輸入綿糸ヨリ約三百五十万海関両合計三千二百三十万海関両ノ財源ヲ得ル事トナル

其五、支那棉花ニ対スル釐金

宋子文が船津氏ニ語ル処ニヨレバ支那棉花ニ対スル釐金ヲ廃止スルタメニ六百万上海兩ノ減収トナリ総収入二千万兩中棉花釐金六百万兩ヲ差引キ一千四百萬兩ノ増収トナルト言フ由ナレバ右ハ單一稅廃止ニ依ル減額ヲモ含ミ居ルヤニモ見ラルルモ不取敢棉花釐金ヲ六百万上海兩ト見做シ計算セリ

其六、

單位海関兩

綿糸統一稅	三二、二五二、五〇五
輸入綿糸増額	三、五一九、九八二
増収計	三五、七七二、四八七
從來移出綿糸單一稅	二、二八四、八〇〇
〃 布 〃	一、一九二、二〇〇
支那產	
〃 棉花釐金宋子文見積六百万上海兩	五、三八六、〇〇〇
減額計	八、八六三、〇〇〇

差引増収

海関兩二六、九〇九、四八七
弗 四〇、三六四、二三一

三、実行ノ範圍如何

国民政府ハ新統一稅実施ト共ニ棉花綿糸及支那製綿布ニ対シ支那全国ニ涉リ釐金現行單一稅二五附加稅教育捐其他所有稅捐ヲ免除ス可シト称スルモ原綿ニ対スル課稅ノ如キ区々ニシテ産綿地方ニ於テハ重要ナル財源トナリ居ルニ鑑ミ果シテ之ヲ撤廢シ得ルヤ又工場使用原料棉ニ対シ戻稅ノ方法ヲ以テ支払済稅捐ヲ払戻ス事ヲ得ルヤ其実行ハ疑問ナキ能ハズ

又製品ノ綿糸布ニ対シテモ一度課稅セラレタル後ハ所有稅捐ヲ免除スベシト言フモ是亦同様其実行ハ甚ダ覺束ナキ所ナリ

從來單一稅制度ニヨリ紡績製品ノ海外輸出ハ輸出奨励ノ意味ニテ輸出稅ヲ免除サレ居レリ

新統一稅ニ於テハ此特典ヲ認メザルモノノ如シ、若シ之ヲ認ムルモノトセバ海外輸出品ニ対シ戻稅ノ方法ヲトルモノナルカ

要スルニ支那全国ニ散在スル紡績工場ニ付其番手別生産

数量ヲ如何ニシテ査定スルヤ

又租界内ニ於ケル工場乃至外人經營ノ工場ニ対シ能ク之ヲ為シ得ルヤ

又各地ニ散在スル工場ニ付其間公平ヲ期シ得ルヤ

尚ホ輸入品ニ対シテハ海関ニテ徵收スルヤ或ハ海関以外ニ於テ徵收セントスルヤ幾多ノ疑問存在セリ

尚ホ又財政部当局ノ声明スル通り綿業ノ發展ヲ期セン意味ニテ統一稅ヲ実行スルモノトスレバ統一稅稅率ハ少クトモ現行諸稅額ト同一程度力或ハ寧ロ夫ヨリ低減セザル可ラザル筈ナルニ實際ニ於テハ甚ダ高率ナルモノアリ綿業発達ハ看板ニシテ收入主義ヨリ出タル提案ナリト見ルト外ナシ

四、輸入品ニ対スル五分増率課稅ノ根拠如何

英支新條約ニ於テハ現行輸入稅率ハ一九三〇年一月末日迄不變據置ノ約束アリ又日支關稅協定ニ於テハ別段期限ヲ付セザルモ新稅率実行二ケ年以内ニ抵代稅及ビ釐金ノ撤廢ヲ約束シ居レルヨリ見レバ更ニ新タニ我方ノ承諾ヲ得ザル限り支那側ニ於テ勝手ニ輸入稅率ヲ改変スルコト能ハザルモノト解スルヲ至当トスベシ

今国民政府ガ輸入綿糸ニ対シ五分ノ附加稅ヲ増徴セント

スルガ如キハ応ニ日支關稅協定ノ精神ト違反セル行為ナリト謂ハザル可ラズ

特ニ在支邦人經營紡績ノ利害ハ勿論ノ事支那輸入綿糸中極ク少量ノ印度品一部ノ支那（上海）綿糸ノ香港經由輸入品ヲ除キ大半本邦品ニシテ我國トシテハ其利害重大ナルモノアリ国民政府ハ綿糸新稅実行ト共ニ從來所有稅捐ヲ撤廢スベシト称スルモ日支關稅協定ニ当リ地方財源タル理由ヲ以テ關稅協定當時直チニ抵代稅ノ撤廢ヲ実行出来ザリシ事莫アリ棉花稅釐ノ如キ重要地方財源ヲ為スモノヲ一片ノ命令ヲ以テ廢シ易カラザルガ如ク特ニ主要産棉地湖北、河南、陝西等ニ於テハ其実行一層難事タル可ク且ツ是等釐金稅捐ノ如キハ綿糸課稅ト關係ナクシテモ既ニ度々撤廢ヲ宣言シタルモノニシテ今更綿糸課稅ト交換條件的ニ特ニ撤廢ヲ宣言スルニ及バザル程ノモノナリ

五、新綿糸稅ト當業者ノ態度

今回綿糸生産稅ヲ取ルニ至レル魂胆ハ昨年ノ排日以来各廠ヨリ種々名目ニテ徵收シ居タル処排日終熄セル今日ニ

於テハ支那綿糸ノ今日依然トシテ徵收セラルル故或一部
分ノ支那人紡績工場ハ居留ラズ生産税トシテ各工場ヨリ
從価一割ヲ徵收スルモ一ヶ年二百万俵約三千万海關兩ニ
近キ收入トナリ良キ財源トナル由吹キ込マレタル為ナリ
ト噂アリ、然シ支那人工場ハ生産税ノ徵收ヲ強制セラル
レバ結局泣寝入りノ外ナカルベク只邦人紡績ノ尽力ニ俟
ツ外ナシトセルモノ如シ

要スルニ南京政府ガ財源ヲ造ランガ為メニ斯ル税金ヲ徵
收セント非公式ニ申シ来レルモノニシテ此ノ徵税其ノモ
ノガ実行セラルレバ之ガ徵收ニ彼等ガ窮迫セル財源ヲ作
ルノミニテ他ニ何等利益ナキヨリ何レモ反対セルモノ、
如シ

右ハ独リ紡績工場ノミナラズ関税ニモ関係シ且ツ之ガ徵
収ハ追ツテ他工場ニ及ボス恐アルニヨリ紡績工場ハ慎
重ノ態度ヲ執リ輕々ニ賛否ヲ決セザルモノノ如ク何レニ
シテモ相当ノ曲折ヲ要スルモノト思ハル

六、対策如何

支那ニ於テ生産税ノ如キ比較的過重ナル新税ヲ徵スルコ
トハ縦令製品綿布ニ対スル課税ヲ撤廃スルトシテモ現行

分五厘ナルヲ以テ五分以下ナラバ宜シキ筈ナルガ仮リニ
其案ヲ示セバ左ノ如シ

第一案現行單一税(担海關兩七匁附加税三匁五分合計

一兩〇五分)ヲ生産綿糸全部ニ拡張適用スル事
綿布ニ対スル課税免除ス

此案ニ拠レバ總生産年額約七百四十万担ニ付七
百七十七万海關兩トナリ現ニ徵收シツアル移
出綿糸布單一税總額三百四十八万兩ヲ差引キ約
四百二十九万兩ノ增收ヲ得ル事トナル
(但、棉花釐金ハ据置クコトトシ)

第二案鍾標準トシ統一税ヲ設定スル事(前項税率ニヨ
リ)運転鍾數三百五十万トシ一鍾一ヶ年生産十
七番手標準仮リニ〇、七俵トシ各工場生産高ヲ
決定セバ生産高七百七十万担トナリ前項税率ニ
依レバ約八百〇八万海關兩トナル
(但棉花釐金ハ据置キノ事トシ)

右第一案ニ於テハ各紡績工場ノ生産高ヲ如何ニシテ調査
スルカ甚タ困難ナル問題ナル可ク若シ申告ニ拠ルモノト
スレバ公平ヲ期スルコト困難アル可シ、
第二案ニ於テモ運転鍾數ノ決定ハ同様至難ナル可シ、而
シテ排日貨運動ニ際シ邦人紡績製品ノ救国基金徵收及ビ

單一税綿糸(尤モ他地方輸出ノ場合ノミ即チ全生産高ノ
約三割位ニ対シ)平均從価二分四厘見当製品綿布類(輸
出ハ全綿布生産高ノ約三割七、八分位)ニ対シ平均從価
三分見当ヲ支払ヒツアルモノナレバ總生産高ニ付平均
從価一分二厘位ヲ負担シツアルニ過ギズ然ルニ今從価
一割ヲ全生産高ニ徵收スルコトトセバ差引八分八厘方現
在ヨリ生産費ヲ増加スルコトナル勘定ナリ其丈外国綿
布トノ競争関係ニ於テ不利ヲ招ク事トナル從ツテ縦令綿
糸ノ対支輸出ニ於テ今日ニ較ベ從価五分丈「ハンデキャ
ップ」ヲ付セラルルトモ大勢ニ於テ我國トシテハ不利ナ
ラザル可キモ綿糸輸入関税ヲ引上ゲシムル事ハ追ツテ一
般ノ他関税ニモ累ヲ及ボシ悪影響ヲ与フル恐アルヲ以テ
在支紡績ノ利害関係ハ別トシテモ出来得ル限り之ヲ阻止
スルコト得策ナラン乎

然シナガラ生産税ノ如キハ一種ノ国内税タル関係上有効
ナル阻止出来ストスレバ不得已輸入関税ヲ現状ノ儘トシ
之ヲ標準トシ之ニ鞅寄セテ或程度ノ生産税ヲ設定セシメ
ルコトハ必ズシモ不合理ニ非ズ

然シテ該生産税ノ程度トシテハ現行綿糸ノ輸入関税ガ七

最近国民政府ガ執リツツアル所謂国人工業保護政策等ノ
点ヨリ見テ結局ハ日本人紡績丈ガ課税セラル事トナルヤ
モ知ル可ラズ

要スルニ右二案ヲ基礎トシ日支兩國人工場及ビ其所在地
ガ開港場ニ在ルト奥地ニ在ルトニ拘ハラズ公平ニ負担出
来得ルガ如キ方法ニ於テ且ツ其運用宜シキヲ得レバ當業
者ト雖モ必ラズシモ反対スルモノニアラザル可シ

編注 これより以下の本文書カッコ内のルビは、外務省通

商局で加筆・訂正されたものであり、数字について
も訂正されたものをルビで表示した。

685

昭和4年9月6日

在漢口桑島総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

釐金廃止は困難なため民族紡保護の上から内
外紡績の差別が生じる可能性について

漢口 9月6日後発

本省 9月6日後着

第六〇八号

在上海總領事發閣下宛電報第一〇五一号宋子文ノ申出ハ地方收入ニ屬スル釐金其ノ他ノ雜稅ヲ廢止シテ中央收入ノ増加ヲ計ラムトスルモノニテ若シ支那紡績ニ對シテモ同一ノ取扱ヲ為スモノトセハ從來ノ如ク内外紡績差別取扱ヲ受ケ居ルニ比シ却テ好都合ナルモ更ニ釐金等カ果シテ宋申出ノ如ク徹底的ニ廢止セラルルヤ否ヤ仮ニ現在中央政府ノ威令完全ニ行ハルル地域内ト雖當省ハ勿論當地經濟圈内ニ含マルル上流各地ハ一律ニ地方財源涸渴ニ苦シミツツアル際トテ嘗テ關稅改正ノ対象物タリシ釐金廢止カ果シテ支那側聲明通實行セラレ得ルヤ否ヤ疑懼セシト同様ノ眼ヲ以テ本問題モ迎ヘサルヲ得ス殊ニ當地泰安紡績ノ如キ湖北湖南ヨリ更ニ四川河南ニ販路ヲ有シ少クモ其ノ後者ノ如キ今日果シテ中央ノ威令サヘ完全ニ行ハルルモノトモ認メラレス從テ釐金其ノ他ノ内地稅廢止ノ交換条件ニ安心期待ヲ抱キ得ス且万一右期待裏切ラレシ場合区々ニ内外紡績ノ差別的取扱ヲ加ヘラルルコトハ從來ノ實例ニ徴シ明カナルヲ覺悟セサルヘカラス故ニ若シ本件支那側ノ希望ヲ容認スルニ於テハ上海ニ於ケル日本紡績ニ比シ一層ノ不安ヲ免レス唯泰安紡績ヘノ入報ニ依レハ上海方面ノ支那紡績ハ外國紡績ト同

追テ本件ニ關スル九月十日附機密第一〇二六号往信附屬別紙宋覺書中ノ計數ハ大体ニ於テ一九二七年ノ海關統計其ノ他ヲ基礎トシテ作成シタルモノノ如キ処右ノ中課稅額ノ平均額算出其ノ他ニ付テハ如何ナル統計ヲ基礎トシタルモノナルヤ諒解ニ苦シム点渺カラサル次第ナルカ右ニ關シテハ九月五日附閣下宛商機密第二二二二号橫竹商務參事官公信中ニ詳細ナル數字ヲ挙ケ置ケルニ付御參照相成度為念併セテ申進ス

(別紙)

第二十三回例会

在華日本紡績同業會

昭和四年九月三日(火曜日、都合ニヨリ一日繰上グ)午後一時日本人俱樂部ニ於テ開催

出席者氏名左ノ如シ

同業會 船津總務 南書記
大 康 古藤田氏 勝田氏
同 興 立川氏
公 大 上田氏 長澤氏
内 外 佐々木氏 元木氏

様ノ取扱ヲ受クルモノトシテ宋等反對ノ氣勢アリ又當地支那紡績(五廠)ノ如キハ本件ハ上海ニ於テ決セラルルモノトシテ目下深ク考量ヲ加ヘ居ラサル如シ當地ニ關スル狀況御參考迄

支、上海、南京、青島、奉天へ転電セリ

~~~~~

686 昭和4年9月11日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛

九月三日の在華紡績同業會會議録送付について

機密第一〇三九号

(9月18日接受)

昭和四年九月十一日

在上海

總領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

綿糸ニ對スル課稅問題

本件ニ關シテハ客月三十一日附機密第九九五号往信ヲ以テ申進シ置キタルカ其ノ後在華紡績同業會ニ於テハ更ニ會議ヲ開キ本件ニ付研究ヲ重ネタル趣ナルニ付右會議録写一部何等御參考迄ニ送附ス

日 華 田邊氏 越智氏  
上 紡 黒田氏  
東 華 石田氏 大塚氏  
豊 田 石黒氏  
裕 豊 山東氏

計 十六名

總 務

昨日宋子文氏ヲ往訪シテ先回臨時會議ノ模様ヲ伝ヘ又怡和ノ「マクニコル」氏及申新ノ榮宗敬氏トモ面會シ両氏ノ意向ヲモ問合セタルガ其結果ヲ報告スル為メ一日繰上ゲテ本日御會合ヲ願ヒタル訳ナリ、実ハ前週土曜日ニ宋子文氏ト會見スル筈ナリシモ先方ノ都合ニヨリ昨日漸ク會見ノ機ヲ得タリ余ハ先ヅ曰ク、

輸入綿糸ニ對シ五分ノ附加稅ヲ課スルコトハ條約違反ナラズヤ、現在關稅率ヲ今年二月ヨリ實施スル際來年一月迄ハ現在ノ稅率ニヨルコトヲ聲明シ置キナガラ今遽カニ更ニ五分ノ附加稅ヲ課セントセバ必ズ列國ノ反對ヲ招クハ明カナルコトニ非ズヤ

宋氏曰ク

急ニ声明ヲ變更シテ直チニ五分ノ附加税ヲ課スルコトハ勿論列國ノ反對ヲ受クルナランモ只主義上之ヲ決定シ置キタキ積リナリ

余曰ク

税関評価ニヨリ一割ノ附加税ヲ課スルコトハ極メテ苛酷ノ税ニテ殆ンド紡績業ヲ破滅ニ陥ル、如キ事ニナラズヤト思フ其他本税ハ其実施上種々困難ノ点アル如ク考ヘラレ随テ吾々同業者トシテハ更ニ一層研究ノ必要アルヲ以テ具体的意見ハ大阪ヨリ何分ノ來電ニ接シタル上ニ非レバ如何トモ返事シ難シ、尚中国側ノ某業者曰ク

中国四億ノ人民中約九割迄ハ棉服ヲ着用シ居ルヲ以テ其原料タル綿糸ニ対シ此ノ如キ重税ヲ課スルコトハ一般民衆ニ対スル惡政ナリ云々ト一応尤モナル言分ニシテ或ハ国民政府ノ信用ニモ関シ此際一般人民ノ怨府トナルハ大イニ考物ナラズヤ

同業者トモ關係アルヲ以テ上海紗廠聯合會ニ於テ相談スルモ差支ナキヤ

宋部長曰ク

支那側紡績業者ニ対シテハ未ダ財政部ヨリ直接相談シタルコトナキモ彼等ハ已ニ此事ヲ承知シ居ルヲ以テ何等差支ナシ、尚貴下ガ秘密ニ附セラレンコトヲ前提トシテ言フガ此計劃ヲ愈實施スレバ支那側紡績業者ハ愈不利トナルニ反シ外國人紡績ハ益有利ノ立場トナル是レ我政府ノ支那側紡績ニ対スル從來ノ態度ニ反シ外國人紡績ニ利益ヲ与ヘントスルモノナリ、日本側紡績ニ於テ愈々綿糸ニ対スル特別税ヲ負担スルコト、ナラバ恰モB、A、Tト同様ニ財政部ノ收入ト密接ノ關係ヲ生スルヲ以テ若シ日本側工場ニ於テ労働爭議其他ノ紛議発生ノ場合ハ其解決ヲ援助シ排日風潮ノ為メ日本紡績ノ経営上打撃ヲ蒙ル場合モ亦同様ニ政府ハ充分ノ注意ヲ払フコト、ナル、元來排日運動ハ支那民衆ノ對外的武器トシテ一般ノ人民ハ不知不識其趨勢ニ引ズラ

宋部長曰ク

只タ数字のニ考フレバ或ハ然ラン、貴下ハ中國人多數ノ必需品タル綿糸ニ対シ此ノ如キ重税ヲ課スルハ苛酷ナリト云ハル、モ衣服ト同様ニ必需品タル麦粉ニ対シテモ已ニ課税シツ、アリ且ツ從來各地ニ於テ課セラレツ、アル綿糸ニ対スル厘金税等其他一切ノ税ヲ撤廃スルノミナラズ其原料タル棉花税ヲモ撤廃スルヲ以テ全体ヨリ言ヘバ決シテ苛酷ノ重税トハ言ヒ難シ、此点ニ関シテハ相當ノ研究ヲナシ財政部ノ計算ニ依レバ棉花生産地ニ於ケル棉花税ノミニテモ毎年六百万兩ニ達シ之ヲ全然撤廃スルコト、ナレバ紡績業者ハ間接ニ其丈ノ利益ヲ得ルコト、ナルニ反シ政府ニ於テハ其丈損失トナル而シテ綿糸ニ対スル課税額ハ毎月二千万兩（此計算ニ関スル材料ヲ後日取寄セン）トナルヲ以テ差引キ一千四百万兩トナルニ過ギズ

余曰ク

此問題ハ日本紡績業者ノミナラズ中国及英國人

ル、有様ナルモ自分一個人トシテハ此ノ如キ對外政策ハ不賛成ナリ故ニ此ノ如ク綿糸ニ対スル特別税ニヨリ支那政府ト工業經營者ト或点ニ於テ利害一致スルコト、ナラバ我等ノ理想ヲ實現スルコトヲ得ルニ至ランカト思フ、中国人中ニハ日本紡績ガ旺盛ニナレバ支那紡績ハ益圧迫セラレ今後到底發達ノ見込ナキヲ以テ寧ろ差別的待遇ヲナシ支那紡績ノ経営ヲ有利ニ導カザルベカラズト主張スルモノアルガ自分一個人ノ私見トシテハ現在支那ニ於ケル工業ハ尚極メテ幼稚ナルヲ以テ差当リ外國人ノ資本ト技術トヲ以テ其發達ヲ助長セシムル外ナカルベシト思惟ス、今日遽カニ人為的差別待遇ヲ以テ外國人經營ノ工業ニ不合理ノ圧迫ヲ加フル如キハ大局ノ上ヨリ見テ果シテ得策ナルヤ否ヤ頗ル疑問ナリト思フ但シ此話ハ全ク貴下迄ノ話トシテ内密ニセラレンコトヲ請フ

余ハ結局支那紡績ニトリ利益ナキヲ以テ彼等ハ大イニ反對シ居ルコトヲ附言シ置キタリ、宋子

文氏トノ会話ハ大体以上ノ如クナルガ或ハ何等  
カノ魂胆アルヤモ計リ難キヲ以テ之ヲ全然信用  
スルコトハ不可ナラン

更ニ今朝怡和ノ「マクニコル」氏ヲ訪問シ綿糸  
ニ対スル特別税ニ関シ支那当局者ヨリ何等カノ  
相談ヲ受ケタルヤト問ヒタルニ「マクニコル」  
氏曰ク

先日黒田氏ヨリ此事ヲ聞キ尚英國商務官ニ此  
事ヲ問合ハセタル処同氏ハ支那当局ニ於テ愈  
実行スル以上ハ之ヲ阻止スル方法ナカルベシ  
ト言ヘルガ貴見如何

余曰ク

現在青島ニ於テハ我官憲トハ何等ノ交渉ナク棉  
花毎担五十仙綿糸毎捆二元六十仙ノ貨物税ヲ実  
施シ居ル由ニテ条約上日本ハ此ノ如キ税ヲ負担  
スルノ義務ナキモ「アンダープロテスト」ニテ  
止ムヲ得ズ支払ヒツ、アル状態ナリ

「マクニコル」氏曰ク

綿糸ニ対スル特別税ヲ実施スルコト、ナラバ厘

払戻シヲ受ケ居ルコトヨリ考フレバ厘金税撤廃  
ガ全然不可能ナリトハ言ヒ難シ云々ト答ヘタル  
旨ヲ話シタル処「マクニコル」氏ハ曰ク

若シ果シテ「バセツト」氏ノ説ノ通り厘金其他  
ノ諸税ガ確實ニ全然撤廃セラル、コトヲ得バ今  
回ノ課税ハ大シタル税ニアラザル可キモ其実現  
ハ大ニ疑問ナリ

余曰ク

此問題ニ関シ吾々日支英三国ノ同業者委員会ヲ  
開キテ対策ヲ協議シテハ如何

「マクニコル」氏曰ク

至極賛成ナリ

次ニ申新ノ榮宗敬氏ヲ訪問シ此税ニ関シ当局ヨリ  
何等カノ相談アリタルヤト問ヒタルニ同氏ハ曰ク  
此問題ニ関シテハ吾々如何トモナス能ハザルベ  
シ、聞ク所ニヨレバ日本側紡績業者ニ於テハ已  
ニ之ヲ承諾セリト云フニハ非ズヤ、財政部ハ日  
本紡績ガ已ニ承諾シタル以上支那紡績ハ勿論問  
題ナク服従スベシト申シ居ル由ニテ吾々ニ対シ

金税等一切ノ税ハ撤廃スルトノ事ナルガ事実上  
可能ナルヤ

頗ル疑ハシ如何トナレバ最近漢口怡和支店ヨリ  
ノ報告ニヨレバ同地方ニ於テハ現在怡和及日本  
紡績ノ綿糸一俵ニ対シ十二弗八十仙而シテ漢口  
支那側紡績生産ノ綿糸ニ対シテハ六弗四十仙、  
上海支那側紡績生産ノ綿糸ニ対シテハ五弗六十  
仙（但申新ハ無税）ノ厘金ヲ徴取シツ、アリ此  
ノ如ク怡和及日本綿糸ニ対スル徴収額ハ支那綿  
糸ノ倍額ニ相当スルガ如キ差別的待遇ヲナシ居  
ル由ナレバ果シテ事実上此ノ如キ厘金其他諸税  
ノ全廃ヲ実行シ得ルモノナルヤ頗ル疑問ナリ  
云々

余ハ此点ニ関シB、A、Tノ重役「メージヨア  
ー」、「バセツト」氏ニ面会シタル際自分モ同様  
ノ疑問ヲ発シタル処「バセツト」氏ハ之ニ対シ  
他処ハ知ラザルモB、A、Tノ関スル限り協定  
通り実行セラレツ、アリ若シ万一違約等ノコト  
アリタル場合ハ取調ノ上直チニ当地税局ヨリ其

テハ何等ノ相談モセズ圧制的ニ服従セシムル模  
様ナリ、国民政府トシテハ必ズ実行スベク然ラ  
ザレバ財政的ニ破滅スベシ、目下軍費政費ニ困  
窮セル結果関税其他ノ収入全部ヲ担保トシテ公  
債ヲ発行シ自分ノ方ヨリモ麦粉税ノミニテ毎年  
二百万弗ヲ支払ヒ居ル有様ナリ恐ラク第二回編  
遣公債七千万弗発行ノ引当テトシテ四苦八苦ノ  
結果此綿糸ニ対スル特別税ヲ案出シタルモノナ  
ラン

余曰ク

此問題ハ吾等日支英三国同業者ニ取り極メテ重  
要問題ナレバ聯合相談会ヲ開キ大イニ反対ノ態  
度ニ出ヅル事トシテハ如何

榮宗敬氏曰ク

恐ラク徒勞ニ帰スベシ、愈々此税ヲ実施セラ  
ル、時ハB、A、T協定ニ依リ支那煙草商ノ經  
営上不利ヲ招キタルト同様ニ吾々支那紡績業者  
モ頗ル不利ノ地ニ陥リ愈々今後ハ経営困難トナ  
ルベシ云々

右ノ如ク支那側ハ絶対服従ノ外ナシト諦メ大イニ悲觀シ居ルガ如キモ裏面ニ於テハ如何ナル秘密運動ヲナシツ、アルヤモ計ラレズ

立川氏

宋子文氏ハ棉花稅ヲ撤廃ス云々ト言フモ吾々ノ需要スル棉花ハ印棉、米棉等世界一般ノ棉花ニ対スル上海市場価格ニヨリ購入シ居リ決シテ支那ニ於テノミノ市場ニ待タザルヲ以テ吾々日本側同業者ニ何等ノ利益モナカラン

黒田氏

過日当地材木商ニ対シテモ綿糸ニ対スル特別稅ト同様ノ貨物稅ヲ課スル旨通知シ来リタルモ有耶無耶ニ終レル由ナリ財政部ニ於テハ吾々ガ此提案ニツキ種々協議シツ、アルヲ以テ多少ノ割引ヲナスヤモ計ラレザルガ一応此点ニ関シ外務省商務官其他ノ団体ヘモ相談スル必要ナキヤ  
B、A、T協定ガ何等障害ナク実施サレツ、アル様ノ話ナルモ江蘇、浙江兩省内ニ於テハB、A、Tノ出張所アル為メ比較的順調ニ行ハレツ、アルニ止リ他省ニ於テハ然ラザル由ナリ  
現在漢口ニ於テ申新ノ綿糸ニ対シテノミ厘金稅ヲ

黒田氏

提案通りノ稅率ナラバ吾々ハ全部引上クルヨリ外ナカラン

總務

要スルニ此問題ニ就テハ支那当局ノ提案ニヨル稅率ヲ以テ愈々実行スル場合中国ニ於テ生産スル綿糸布及外国輸入綿糸布ニ対シ如何ナル影響ヲ及ボスカ之ヲ数字的ニ取調ベテ支那側当局ニ説明スルニ非レバ到底埒明カスト思フ

◎提案通りノ綿糸ニ対スル特別稅ガ愈々実施サレタル場合紡績同業者ニ対シ如何ナル影響ヲ及ボスカニ就キ委員ヲ挙ゲテ数字的研究ヲナスコト

委員会社ヲ左ノ如ク決定ス

内外、豊田、日華、上紡、公大

總務

昨日大阪武居委員長ヨリ日本綿糸輸入關稅改廃ニ関スル委員会ノ決議(省略)ヲ電報シ来レルガ之ニ対シ如何ニ処置スルヤ

◎異存ナキ旨返電スルコト。

午後三時散会

課セザルハ榮宗敬氏ヨリ私カニ国民政府ニ獻金シ居ル為メナリ

總務

提案ニヨル稅額ハ苛酷ニ過ギルヲ以テ之ヲ数字的ニ明示シ此ノ如キ重稅ヲ課スレバ支那側紡績ハ必ズ経営困難ニ陥ルコトヲ説明シ財政部ノ反省ヲ促シテハ如何

田邊氏

此問題ニ関シテハ委員ヲ選出シテ充分研究シ先ヅ吾々同業会ノ態度ヲ決定スル必要アラシ

總務

紡績同業会ノミナラズ綿糸布同業会場合ニヨリテハ商工会議所トモ共ニ研究スルコトニシテハ如何  
勝田氏 綿糸布同業会トハ利害大イニ相反スルヲ以テ共ニ研究スルコトハ考慮ヲ要ス

總務

国民政府ノ意向ガ吾々ノ反対如何ニ係ラズ実行スルカ或ハ出廠稅ノ如キ形式トナルカ等ニ就キ宋子文氏ノ口吻ヨリ察スレバ稅率ハ尚決定シ居ラザルモ実行スルコトハ確實ナルガ如シ、若シ愈々実行ノ曉ニ至リ吾々ガ之ニ服從セザル場合国民政府ニテハ必ズ別ニ何等カノ方法ヲ以テ妨害ヲ加ヘルナラント思ハル

687 昭和4年9月13日

幣原外務大臣ヨリ  
在上海重光總領事宛(電報)

綿糸統一稅により在華紡績工場生産綿糸は輸出稅免除されるか真相調査方訓令

第四六九号

本省 9月13日後6時30分発

貴電第一〇八七号ニ関シ

現行單一稅制度ニ拠レバ在支工場製産綿絲ハ其ノ海外輸出ノ場合ハ輸出稅單一稅共免除セラルモノト解セラルル処当業者側ニ於テハ右綿絲モ單一稅ヲ納付ノ上パスヲ受取リ外国ヘ輸出ノ際之ヲ稅關ニ提示シテ輸出稅ヲ免除セラルル次第ニテ結局單一稅ノミハ此場合ニモ賦課セラルモノナル旨説明シ居レリ就テハ右真相御取調ヘノ上十七日迄二回電アリ度シ

688

昭和4年9月14日  
在上海重光總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

綿糸の海外輸出は輸出稅單一稅とも免除について

第一〇九六号

貴電第四六九号ニ関シ

綿絲ノ海外輸出ノ場合ハ輸出税單一税トモ免除セラルルコト貴見ノ通ニシテ当業者側ノ説明ハ何等カノ誤解ニ出ツルモノト認メラル

689 昭和4年9月17日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

綿糸統一税施行の場合の内外日本紡績業への

影響について

上海 9月17日後発  
本省 9月17日後着

第一一〇八号

横竹ヨリ

貴電第一一〇号ニ関シ前段中

(一)綿糸生産費ハ機械新旧、工場大、小、錘数等ニ依リ差異アルモ当地日本人側二十番手生産費最低二十兩最高二十二

此ノ点貴方ニテ更ニ御調査アリ度ク尚両者ノ内容明細数字(支那ノ分ハ両共)通知願度シ

近年ノ最高キ為替率八十四兩ニテ換算スルモ

在支紡績生産費、 二五円〇〇

原料輸入税 三、九〇

運賃諸掛リ 二、八九

繰返料 二、三八

計 三四、一七

ニシテ支那糸ヲ日本ニ輸入スルトセハ日本生産費トノ差ハ頗ル僅少ナリ

(四)<sup>(2)</sup>之ヲ要スルニ日本紡績側トシテ現ニ受ケツツアル保護ヲ放棄スルコトニ反対スヘキハ勿論ナレトモ我カ国紡績業ノ今日ノ基礎ニ於テハ現行輸入税位ノ撤廃ニ依リ不振ヲ来ス程度ノ影響ヲ受クヘシトモ思ハレス且輸入税撤廃ハ日本国内紡績業丈ケノ利害関係ヨリスル操業短縮、需給ノ調節、買占値段ノ釣上ケ等ヲ防止シ世界ノ相場ニ依リ支配セラルル我国最大輸出品タル綿織物ノ輸出採算ヲ有利ナラシムル上ニ多大ノ効果アラム

(五)当地綿布業者ハ操短、買占其ノ他ノ人為の相場ノ昂騰ヲ

上海 発  
本省 9月14日後着

両見当ナルカ先ツ標準的ノモノ人件工費一〇兩七五、物件修理九兩八三、税金〇兩四二合計二十一兩

試ミニ過去二ケ年間平均為替率ニ依リ円価ニ引直セハ

一九二五年 三九円六〇

二六 二九、三七

二七 二七、六三

二八 二九、八九

二九 二七、二七

(支那人紡績ハ工賃幾分割安ナルモ他費用嵩ミ約二十五兩見当)

(一)在支紡績ハ原料棉花ニ対シ現今毎「ピクル」海関兩一兩二匁(七分二厘)ノ輸入税ヲ支払ヒ居リ綿糸一俵用原料棉花三百五十斤中七割ノ輸入棉花ヲ使用為替七十二兩ト看做シ此ノ円価四円八十三錢トナル夫レタケハ常ニ不利トナル(二)貴電ニ依レハ内地工場生産費四十二円トアルモ当地紡績業者ノ計算ニ依レハ最低三十円位ノモノモアリ先ツ標準三十五円ト見ル事妥当ナランカト云フ又支那ノ二十二円ト云ヒ内地ノ四十二円ト云フモ其ノ比較内容項目相等シキヤ

防クコトヲ得テ綿布輸出貿易上有利ナリトセリ

又当地紡績方面ニ於テモ関稅撤廃ノ為ニ蒙ル内地紡績ノ影響ハ普通ノ場合ニ於テハ左程ノモノニアラストノ意見多シ

産業上ノ改革ハ一定ノ方針ヲ示シ施設ハ漸進的ナルヲ要ス其ノ間自己ノ産業ヲ新方針ニ適応セシムル様努力スヘキヲ以テ此ノ際直ニ輸入税ノ全廃ニ異論アリトセハ先ツ之ヲ半減シ漸進的ニ実行スルコト最モ適當且穩健ノ処置ナラムカ

690 昭和4年9月19日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛

在華紡績同業会第二回會議録追送について

機密第一〇八四号 (9月30日接受)

昭和四年九月十九日

在上海

総領事 重光 葵(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

綿糸課税ニ関スル件

本件ニ関スル在華紡績同業會第一回會議々事録ハ九月十一日附機密第一〇三九号ヲ以テ送付致置タルカ同會第二回會議々事録追送ス御査収相成度シ

(別紙)

第二回臨時會議

在華日本紡績同業會

昭和四年九月九日(月曜日)午後一時日本人俱樂部ニ於テ開催

出席者氏名左ノ如シ

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| 同業會 | 船津總務 | 南書記 |
| 大康  | 倉田氏  |     |
| 同興  | 立川氏  |     |
| 公大  | 長澤氏  | 上田氏 |
| 内外  | 元木氏  |     |
| 日華  | 田邊氏  | 越智氏 |
| 上紡  | 黒田氏  |     |
| 東華  | 石田氏  | 大塚氏 |
| 豊田  | 石黒氏  |     |
| 裕豊  | 山東氏  |     |

計十四名

総務 前週金曜日ノ朝宋子文氏ト面会シタル際今回ノ綿糸特別税ニ関スル先方ノ数字的計算ヲ知リタキ旨話シ置キタル処只今御配付申上ゲタル通りノ覚書(省略)ニ接シタルヲ以テ充分御研究ヲ願ヒタシ

越智氏 一昨土曜日委員會ニ於ケル模様ノ概略ヲ報告セン今回支那側当局者ヨリ綿糸ニ対スル出廠税ノ如キモノヲ恰カモB、A、T協定同様ニ我々ト直接相談ノ上実施シタキ旨相談アリタルガB、A、Tノ事例トハ大イニ事情ヲ異ニスルヲ以テ直チニ之ヲ紡績業ニ適用スルハ誤レリト思惟セラル之ニ対シ成可ク早ク何分ノ回答ヲ与フル必要アルモ差当リ此事ヲ大阪へ報告シタル結果本件ハ重大問題ナルヲ以テ慎重ノ考慮ヲ要ストノ意向ナルニヨリ当方ヨリ今急速ニ具体的回答ヲナスコトハ困難ナリト云フ程度ニ返答スル方可ナラントノ意見モアリ又綿糸輸入税ニ対スル五分ノ附加税ヲ課スルコトハ条約違反ナルヲ以テ若シ此点ニ就キ日本外務省トノ交渉ガ有耶無耶ニ埋ムラレ出廠税ノミ実施セラル、コト、ナラバ到底我々ノ堪エ得ル所ニアラズサリト断然拒絶スルコトモ不可ナラ

ン云々ノ議論モアリタルガ結局先ニ御配付申上置キタル

通り本件ヲ五項目ニ分チテ数字的調査(省略)ヲナシ之ヲ先方ニ通知シ先ヅ第一項目ヨリ漸次相談シ先方ノ反省ヲ促シテハ如何ト云フコトニ一致セリ

長澤氏 委員會ノ成行ハ只今越智氏ノ御話ニヨリ已ニ御承知ノ通りナルカ此問題ニ関スル委員會ノ調査事項ヲ先方ニ通知スルコトハ如何ナルモノカ余リ之ニ触レザル方可ナランカト思フ、此調査ヲ主トシテ宋子文氏ニ回答スベキカ或ハ当方ノミノ調査トシテ此儘置クカ諸氏ノ御判断ヲ問フ

総務 委員會ノ調査ハ宋子文氏ニ回答スル為メニナシタルモノニアラズ只本件ニ関シ当方ニ於テ数字的調査研究ヲナシ我々ノ意見ヲ決定シ置クト云フ意ニ外ナラズ、先方ノ意向ノミヲ聞キ当方ノ調査ニ就テハ成可ク話サル積リナリ

田邊氏 何レ本件ハ重大問題トナルヲ以テ当方ニ於テ具體的研究ヲナシ置ク必要アリト云フニ過ギズ

総務 委員會ノ決議ニ対シ異議ナキヤ

◎委員會ノ決議ハ当會ノ代表の意見トシ大阪及外務省方

面へモ通知スルコト

総務 宋子文氏ヨリ接シタル綿糸特別税ニ関スル数字的覚書ニ就テモ委員會ニ於テ御研究ヲ願ヒ置キ其結果等大阪小生宛御通知ヲ願ヒタシ

同 今回南京出張ノ件ニ就キ簡單ニ報告セン

前週木曜日外務大臣ヨリ重光總領事宛テ青島ニ於ケル日本人工場閉鎖ニ関スル訓令アリタル由ニテ其大要ハ長文ノ覚書トナリ居リ今御参考迄ニ朗読セン(省略)実ハ此事ニ関シ重光總領事自身赴寧シ中央政府ト交渉セラル、筈ナリシモ都合ニヨリ取止メ此旨上村南京領事ニ転電シ王外交部長ニ交渉セシメラル、コト、ナリ尚余ニ対シテモ南京ニ赴キ此覚書以外青島ノ現状ヲ詳細説明セラレタシトノ依頼アリタリ兼々余モ亦一度中央政府ニ対シ青島ニ於ケル詳細ノ状況ヲ陳情シタキ考ナリシモ却テ先方ニ日本紡績側ガ軟化セリト邪推セラレンコトヲ慮カリ只今迄躊躇シ居タル所ナリシヲ以テ遂ニ前週金曜日ノ夜赴寧スルコトニ決意シタル訳ナリ、尚其以前時宜ニヨリテハ中央党部ノ重要人物ニ対シテモ青島ニ於ケル一切ノ状況ヲ報告シ置クコトモ一策ナリト考ヘ当地相当ノ中国人ヨ

リ紹介状ヲ求メ置キタリ、南京ニ於テハ先ヅ外交部ヲ訪問シタル処生憎王外交部長ハ余ト行違ニ来滬シ不在ナリシヲ以テ周龍光氏ト面会シ極メテ詳細ニ青島ノ情況ヲ説明セリ尚中央党部ノ陳果夫、陳立夫、葉楚滄等諸氏ニモ面会セラル、方宜シカラントノコトナリシヲ以テ先ヅ陳果夫氏ヲ訪問シタルニ同氏モ亦不在ナリシヲ為メ秘書吳人望氏ニ面会シ今回青島ニ於ケル労働争議ニ就テハ元来市党部ノ指導宜シカラザルヲ以テ自然工整会ノ態度モ不良ナリ云々ト忌憚ナク詳細説明シ置キタリ、其他ノ諸氏トハ当日土曜日ニテ種々懸違ヒ翌日曜日ハ尚更面会不可能ナリト考ヘタルヲ以テ残念ナガラ面晤ノ機会ヲ逸シ昨日曜日ノ早朝帰滬シタルガ其後重光総領事ト面会シタル際同氏モ王外交部長ガ土曜日来滬セルヲ以テ訓令ノ赴<sup>(總カ)</sup>キヲ篤クト伝ヘ置キタリト語り居タリ、又本日会議ニ出席スル前宋子文氏ト面会シタル処同氏ハ曰ク

陳立夫ハ目下来滬中ナルヲ以テ是非会見シ置カル、方可ナラン、青島ノ状況ニ就キ彼ノ考ハ全ク相違シ居リ簡單ニ云ヘバ市党部ハ頻リニ工場ノ開工ヲ要求シ職工ノ態度モ已ニ改良セラレタルニモ係ラズ日本紡績側ハ

リ、過日社会局ヨリ上海ヘ派遣セル約二百人ノ失業職工ハ二回ニ亘リ全部帰青シ社会局ニ押掛ケテ救済方ヲ請求シタルガ其中大部ハ已ニ帰省セル模様ナルモ元兇若干ハ工整会ノ訓練委員ニ採用セラレタル由ナリ、宿舍内ニ残留シ居ル職工等ハ何日開工スルヤ等泣言ヲ洩ラシ居リ乍ラ一旦外部ニ出テハ傲慢ノ態度ヲ持シ或ハ窃偷ヲ働ク等非常迷惑ヲ感シツ、アリ、尚四方、滄口ニ於ケル憲兵分処ノ憲兵等ハ不良工人ヲ取締ル責任ヲ有シナガラ之ヲ鎮圧スル能ハズ却テ不良工人ヨリ追払ハレルカ如キ状態ニテ分処長ノ如キモ過般交代セシメラレタル由ナリ云々

追加報告

総務 今朝怡和ノ「マクニコル」氏ヲ訪問シタル処同氏曰ク

綿糸特別税ニ関シ更ニ英国商務官ト面会シテ宋子文氏ヨリノ覚書ヲ示シ之ニ対スル意向ヲ問ヒタルニ商務官ハ「本件ハ重大問題ニシテ支那側当局者ト接渉スルニハ余程慎重ノ考慮ヲ要スト思フ云々」ト語レルヲ以テ是非一度日、英、支聯合委員会ヲ開キ本問題ヲ協議シテハ如何余曰ク

依然トシテ頑強ニ承諾ヲ与ヘザルモノト思考シ居ルヲ以テ彼ノ諒解スルヤ否ヤハ別問題トシテ一応此点ニ就キ貴下ヨリ詳細説明シ置カル、方宜シカルベク彼ノ居所ハ後刻尋ネタル上通知セン云々

尚南京発行ノ中央日報及本日ノ新聞紙上ニ青島ノ状況ニ就キ噴飯ニ堪エザル記事ヲ掲載シ居レルガ今之ヲ朗読セン(翻訳配付ノコト)

倉田氏 昨日青島ヨリ帰滬セルガ青島ニ於ケル概略ノ状況ヲ報告セン

先ヅ青島ノ同業者ヨリ当地会員ニ対シ今回ノ事件ニ就テハ種々御見舞ヲ忝フシ感謝ニ堪エズ尚今回ノ綿糸特別税問題ニ関シテハ上海会員ノ御意見ニ同意スル旨ヲ伝ヘラレタシトノコトナリキ、職工ノ状態ハ船津氏帰滬後モ依然トシテ改良セラレズ去ル六日長紡ニ數十人ノ糾察隊押掛ケ原動機修理中ノ工人二名ヲ無理ニ拉致スル等工整会ノ善良工ニ対スル乱暴ハ益募リ殊ニ彼等ノ惡辣ナル手段ハ四方ニ於テハ大康滄口ニ於テハ公大ニ集中シ居ルガ如シ、社会局ハ失業職工ニ対シ往復乗車券ヲ発給シテ一時帰省セシメ或ハ物質的援助等種々救済策ヲ講ジツ、ア

明日ノ連絡船ニテ日本ヘ赴ク豫定ナレバ乍遺憾其餘裕ナシ

「マクニコル」氏曰ク

支那側当局者ハ貴下ノ帰国中急ニ本件ヲ実施スルガ如キコト万ナカルベキヲ以テ貴下ノ帰滬セラル、迄会議ヲ見合ハスコト、セン

前述ノ如クナルヲ以テ英国側ニ於テハ未ダ何等具体的意見ナキモノト思ハル。 以上

午後三時半散会

昭和4年10月12日 幣原外務大臣より  
在上海重光総領事宛(電報)

綿糸統一税問題については裏面で条約関係等を考慮しつつ在華紡を適宜指導方訓令

別電 十月十二日発幣原外務大臣より在上海重光総領事宛第四八七号

綿糸統一税に対しては条約上から基本的に反対なるも税率協定問題と関連させ協定成立する場合に内外差別をなくし長期間協定とすべ

本省 10月12日後3時40分発

第四八六号

貴電第一〇五〇号ニ関シ

宋子文今回ノ申出ノ動機ハ素ヨリ財政上ノ窮迫ヲ救フニ在ルヘキモ其提案ノ内容ハ今後ノ在支邦人企業ニトリ特ニ慎重考慮ニ値スル義ト思考セラルル所宋ノ提案中ニハ別電ノ通条約違反ノ点モ含ミオリ政府ノ立場トシテハ之ヲ其儘承認シ又ハ之ニ公然参与スル能ハサルコト勿論ナルモ支邦ノ如キ変則的事態ニ顧ミ若シ紡績業ニ付当業者ト国民政府財政部間ニ何等カノ協定成リ貴電第一〇一七号英米煙草ノ例ニ付宋子文ノ説明セルカ如ク真ニ兩者共通ノ利害關係ヲ作り且其ノ運用宜シキヲ得ルニ於テハ在支企業ノ円満ナル発達ニモ資スル所アルヘク從テ當業者自身ニ於テ国民政府財政部トノ間ニ此種納稅協定ヲ遂クルコトニ付テハ其内容如何ニ依テハ政府トシテ必スシモ之ニ反対ノ態度ヲ採ルノ要ナキ義ト考ヘラル唯協定ノ内容ニ付テハ先方提案ニモ尚明瞭ナラサル箇所多々アリ殊ニ綿糸ト綿布トヲ区分シタル理由ハ不可解ナルヤニモ察セラレ當業者側トシテモ尚篤ト研

(欄外記入一)

究ノ上接衝ヲ重ヌル余地アルヘク且協定期間ニ付テモ各般ノ事態ヲ考慮ノ上慎重ニ決定スルノ要アルヘシ將又協定ニ依リ当事者以外ノ邦人企業等ニ悪影響ヲ及ホスカ如キハ出来得ル限り之ヲ避クルコト必要ナルヘク結局此等ノ諸点ニ付テハ先ツ當業者ヲシテ篤ト利害打算ニ基キ考究ヲ遂ケタル上条約關係等ヲモ適當考慮シタル対策ヲ講セシムルコトトスルノ外ナカルヘシ

尚本件支邦側課稅權ニ関スル我方条約上ノ見解及宋子文ノ提案ニ対スル当方意見詳細別電ノ通ナルニ付貴官ハ委曲右ニテ御承知ノ上適宜當業者ヲ指導セラレ度シ本電及別電ノ大体ノ趣旨ハ船津上京ノ際内示置タルモ當業者側ヨリ本問題ニ関スル政府ノ意嚮ヲ支邦側ニ知ラシムルガ如キコトナキ様嚴重御注意置アリタシ為念

南京、漢口ヘ転電アリ度  
北平、青島、奉天ヘ転電セリ

(欄外記入一) 商工大臣次官モ本件ニ付懸念シ居レルニ付商

工省ヘモ一応転示相成度

(欄外記入二) 商工省ト協議済 西(印)

編 注 筆跡より吉田茂外務次官の書込みと思われる。

(別 電)

本省 10月12日後3時25分発

第四八七号

一、支邦ニ於ケル本邦人ノ工業製造品ニ対スル課稅ニ関シテハ購和条約第六條第四ニ於テ右製造品カ開市場ヲ離レ内地ニ輸送セラルルニ際シ通過稅其他各種ノ内地稅ノ賦課ニ関シ輸入品ト同一ノ基礎ニ置カルヘキ旨ヲ規定シタルカ其後通商条約附屬議定書第三條ニ依リ支邦側カ開市場ニ於テモ亦本邦人製造品ニ課稅シ得ヘキコトヲ認メタルモ右開市場ニ於ケル支邦ノ单独課稅權ハ追加通商条約第一條及第九條ニ依リ廢止セラレ支邦ハ消費稅、生産稅等ノ賦課ニ関シ日本初メ各条約國ト協議決定スルヲ要スルニ至リタル次第ナルモ本件ニ関シ其後支邦ト各国間ニ何等協定セラレタルモノナク(客年ノ白、伊、葡、西、丁ト支邦トノ条約ニハ治外法權撤廢ニ依リ支邦課稅權服從ノ規定アルモ右スラ未タ効力ヲ發生セス)從ツテ支邦ニ於ケル本邦人ノ工業製造品ハ通過稅其他ノ内地稅負担

ニ付前記購和条約ノ規定ニ依リ輸入品ト同一ノ基礎ニ置カルヘク即チ内地ヘ輸送ノ場合二分五厘抵代稅程度ノ課稅ヲ支払フヲ要スルノミニテ其他ノ一切ノ負担ヲ免ルヘキ次第ナリ然ルニ今回宋子文ノ提案ハ開市場ニ於テ消費セラルル貨物ニモ等シク課稅セラルルモノナルニ付条約解釈トシテハ少クトモ此ノ点ニ付本邦側ノ同意ヲ要スル次第ナリ

二、支邦側ハ今回ノ提案ニ成功スルニ於テハ各種ノ在支邦人企業ニ漸次右計畫ヲ及ホシ来ル虞アリ殊ニ一躍從価一割ト云フカ如キ負担ヲ承諾スルニ於テハ他方面ニ対スル影響モ大ナルヘキニ付此等ノ点ニ付充分考慮ヲ要スヘク又課稅ノ形式ハ前記条約ノ解釈トノ抵触ヲ避クル為成ルヘク從來ノ機械製洋式貨物單一稅ヲ増額スルノ形態トシ開市場内ニ於ケル生産消費稅等ノ形式ハ之ヲ避クルコトト致度(B、A、Tト支邦側トノ取極ニ於テハ在支工場生産品中一定量ニ対シ課稅免除ヲ認メ条約ト調和ノ余地ヲ有シオレリ)尚納稅済ノ貨物カ果シテ内地各種ノ課稅ヲ免除セラルルヤ否ヤニ付テハ漢口来電第六〇八号ノ如キ懸念アルニ付此ノ如キ場合ニ於ケル中央政府ヨリノ

償還義務ヲ成ルヘク広汎ナル地域ニ亘リテ確約セシムル  
コトハ本件協定ノ骨子ト思考セラル

三、貴電第一〇七八号宋子文ノ計算ニ依レハ五分ノ輸入附加税ハ本邦輸出綿糸全部ニ対シ課セラルルモノト認メラ  
ルル処本件ハ御来示ノ通現行輸入税ノ変更ナルノミナラ  
ス宋ノ提案ニ依レハ輸入綿糸ハ支那製綿糸ニ比シ従来ヨ  
リモ有利ナル地位ニ置カルル次第ナルモ後日輸入綿糸ノ  
ミニ対シ更ニ増税ヲ行フコトトナルヤモ計ラレス旁々右  
ハ現在ノ条約関係ノ下ニ於テハ我方ノ絶対ニ承認シ能ハ  
サル処ナルニ付本件協定中ニ輸入税ノ増徴ヲ取極ムルコ  
ト是非必要ナリトセハ之カ実施ノ時期ニ就テハ日支条約  
ノ改訂問題殊ニ税率協定問題ト關聯シテ考究スルノ要ア  
ルヘシ

四、協定成立ノ場合ニハ相当長期ノ期間ヲ設ケ先方ノ税額  
増徴ヲ防止スルコトトセサレハ折角ノ取極モ有害無益ニ  
了ル虞アリ尚納税額奨励金其他ニ付支那人紡績及他外国  
人紡績ト同一ノ待遇ヲ確保スル規定ヲ存スルノ必要ナル  
コト言フヲ俟タス

南京、漢口へ転電アリ度シ

地出発帰朝シタル田邊ノ如キモ右ニ付本官ノ意見ヲ求メタ  
ルニ付自分ノ承知スル所ニテハ外務省トシテハ素ヨリ本件  
課税ニ賛成ノ次第ニテハナク又条約ノ規程ニ反スル点モア  
ルニ付避ケ得ラルルモノナレハ結構ナルモ避ケ得ラレサル  
現状ニ於テハ已ムヲ得ス實際的方法トシテ出来得ル丈損害  
ヲ尠クシ実益ヲ挙クルノ途ヲ択フノ外ナカルヘシトノ意見  
ニテ船津モ右ハ能ク承知シ居ル筈ニテ其ノ言フ所モ結局同  
様ナラムトノ趣旨ヲ答ヘ置キタリ紡績側ニ於テハ兎角船津  
ノ態度ヲ誤解シ其ノ努力ノ真価ヲ諒解セサルモノ多キ模様  
ナルニ付青島工場問題ニ付テモ同様其ノ点東京方面ニモ反  
映スルヤモ知レサル処御含置相成度シ

### (付記)

拜啓 御帰任後日々御多忙ノ御事ト奉存候先日御帰阪ノ節  
ハ小生常ニ不在勝ニテ申訳ナキ缺礼仕候段御有免願上候扱  
テ例ノ出廠税ノ事ニ付キ其後小生熟々考フルニ此ヲ拒絶シ  
テモ支那ガ取ルト云ヘバ致方無之又今日、日本ノ在支紡績  
ト支那政府トノ利害少シモ一致致シ居リ不申此ヲ一致セシ  
メル事ガ爭議ヲ一掃スル方法ニテ万一青島ノ如キ事件起リ

北平、青島、奉天へ転電セリ

692 昭和4年12月(2)日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

船津が綿糸統一税を承認しているため外務省  
が同課税を黙認しているとの当業者間の誤解  
について

付記 十月八日付児玉一造より船津辰一郎宛書簡

青島在華紡ストライキよりみて綿糸統一税承  
認の方が有利と考えられるについて

上海 発

本省 12月2日後着

第一三八三号(極秘)

貴電第四八六号ニ関シ

先般喜多又藏来滬シ外務当局ニ於テハ出廠税承認ニハ賛成  
ニ非サルモ当業者特ニ船津カ本件課税承認ニ傾キ居ルカ為  
之ヲ黙認スル外ナカルヘシトノ意見ニシテ船津ノ伝フル外  
務省側ノ意見トハ多大ノ間隔アリト述ヘアル為當地紡績聯  
合会方面ニ於テモ非常ニ迷ヒ居ル模様ナリ而シテ三十日当

テモ政府ハ極力此ヲ抑圧スル事ト存シ候此ニ対シテハ矢張  
リ納税ヲ為シ政府ガ紡績ニヨリテ収入アル様ニ致ス事一番  
良方法カト想到致シ候ニ付キ其意味ヲ佐分利公使ニ申上ゲ  
置キ候其方法トシテ

一、出廠税ハ居留地ノ外人経営紡績ヨリ取立ツル事ハ条約  
上ノ大義名分ヲ破壊サレ他ニ悪影響ヲ与フル故其名目ハ  
同意出来ザルモ条約ニ抵触セザル名目例令バ「消費税」  
式ノモノニテ課税シ紡績ガ其取立ヲ代弁スル事ノ形式ナ  
ラバ差支ナカルベキカ

(字分欠カ)

一、税額ハ棉糸一俵三百斤建五、六兩以下トシ上海及其附  
近ノ紡績ハ勿論、青島、天津、漢口等モ一率ニ課税スル  
事

一、右国内消費税課税ト同一金高ヲ輸入棉糸ニ課税スル事  
一、棉布ハ支那製トテモ全然除外スル事自然日本其他外国  
棉布モ特別課税ナキ事  
一、支那棉糸ヲ各外国ニ輸出スル場合ハ国内消費税ハ免除  
ノ事

一、輸入棉花課税ハ従来通り据置キノ事  
一、釐金税其他ハ撤廃困難ニ付キ此ニ触レサルコト

右ノ通り実行スル時ハ一ケ年二百五十万俵ノ棉糸生産中其  
以ハ棉布原料及糸ノ輸出トナルモ尚百六十万俵ノ国内棉糸  
消費アリ毎年千万両近ク収入アリ且ツ釐金及棉花輸入税  
ハ現率据置キナラバ政府ハ千万両只儲ト相成可申妥協容  
易ト存ジ候

此意見ハ先日公使ト会見ノ公開席上ニ於テ小生発表仕候、  
鐘紡長尾氏モ大賛成ニ有之候、日本ヨリ職工ヲ青島ニ送り  
営業スル杯ハ飽迄挑戦的態度ニテ此方法ハ将来禍根ヲ胎ス  
事ト相成可申候

長尾氏モ同意見ニ有之候

支那人ハ日貨排斥ノ場合ニ於テ不良ナル支那棉糸ヲ日本人  
経営紡績ノ良質棉糸以上二十両モ高ク払ヒテ平気デ居ル事

(二 字分欠カ)  
故五 六兩ノ消費税ヲ一体ニ掛ケテモ大シタ差支無之カト  
存居候

尚此契約ヲ為ス場合ハ支那人紡績ニ生産奨励金ヲ特別ニ呉  
レル杯ト云フ方法ハ支那政府ニ於テ絶対ニ為サザル旨ノ契  
約必要カト存居候右ノ事情御含ミ置キ被下度御願申上候

草々

昭和四年十月八日

兒玉一造

船津尊台

侍史

## 付二 青島在華紡罷業問題

693 昭和4年6月19日

在青島藤田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

青島在華紡の工会活動活発化と職工風潮悪化  
につき中国側へ警告について

青島 6月19日後発  
本省 6月19日後着

第一九五号

当地我紡績工場方面ニ於ケル工人風潮ハ先般内外棉ニ於ケ  
ル抵抗ヲ切掛ニ漸次悪化ノ徴アリ即市党部ハ未タ承認ヲ与  
ヘタル事ナシト言明セルニモ拘ラス各社内ニ設立セラレタ  
ル工会ハ不良分子指導ノ下ニ公然活動ヲ続ケ善良職工ノ加  
入強要ハ勿論昨今ニテハ罷工資金トシテ会員ヨリ三十銭乃  
至一円ノ会費徴収ヲ開始スルヤノ噂モアリ一方各工場内ニ  
於テハ規定ノ休業時間前ニ機械ノ運転ヲ停止シ作業時間中  
公然ト居眠リシ故意ニ早退シテ皆勤手当ヲ要求シ言懸ヲツ  
ケ会社側ニ忠実ナル守衛ヲ殴打シ監督ノ日本人ニ品物ヲ投  
ケ付ケ故意ニ窓硝子ヲ破碎スル等会社ニ対スル「嫌ガラ

セ」の行動殆ト連日繰返サルル為会社トシテモ此ノ上隠忍  
スルハ却テ得策ナラスト為シ前日如上ノ如キ実情ヲ詳述シ  
且若シ現在ノ如キ乱脈状態ヲ持續スルニ於テハ或ハ六会社  
ノ一律主動的ニ休業ヲ断行スルノ已ム無キニ立チ至ル無キ  
ヲ保シ難キニ付局面打開ノ為此ノ際最善ノ措置ヲ講セラレ  
タキ旨ノ陳情書ヲ提出シ来レルヲ以テ本官ハ昨十八日吳思  
豫ヲ往訪事態説明ノ上不良分子ノ嚴重取締方ヲ要求シ且成  
行ノ如何ニ依リテハ治安ヲ乱スニ至ルヘキ虞アル事ヲモ指  
摘シテ豫メ警告ヲ与フルト共ニ更ニ本十九日陳仲孚及吳思  
豫ニ宛テ同様ノ趣旨ノ公文ヲ以テ要求警告シ置ケリ昨日会  
見ノ際吳ハ取調ノ上充分取締ルヘシト返答セルモ主腦者タ  
ル市長ヲ缺ク当地ノ現状ニ顧ミ吳カ果シテ何ノ程度迄責任  
ヲ以テ取締ヲ要求スルヤ相当懸念ナキ能ハス

支、上海、南京、天津ニ転電セリ

694 昭和4年7月13日

在青島藤田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

青島在華紡経営者側「不良職工」を解雇リスト  
あれば一斉休業方決議を中国側へ通告について